

2015年3月期 決算説明会資料

～中計「New Challenge2016」の初年度の進捗について～

2015年6月3日

稲畑産業株式会社

代表取締役社長

稲畑 勝太郎

稲畑産業とは、



稲畑染料店(京都・西陣)

1. 創業1890年

1890年 京都において、稲畑染料店として発足
その後、ケミカル分野を中心に事業を拡大

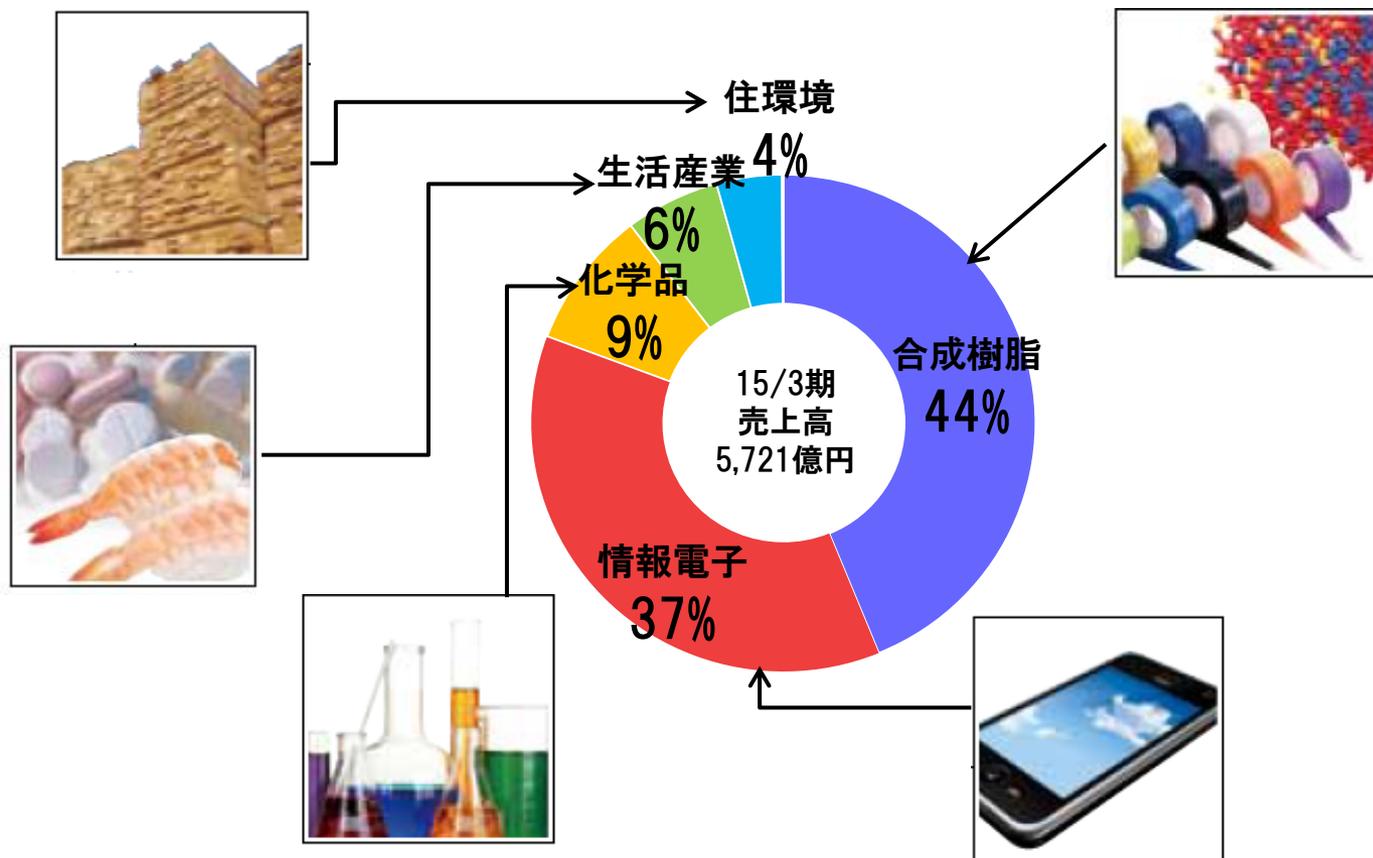
2. グローバルに複合展開する商社

世界17カ国に約60拠点を展開
市場開発、製造加工、物流、ファイナンス等の機能
商品やマーケットの専門知識・ノウハウに基づく企画・提案



3. 5つの事業分野

情報電子、化学品、生活産業、合成樹脂、住環境の5つの分野で事業を展開



当社の主要なマーケットの概況と今後の見通し

- **液晶パネルのマーケット**

大型パネル(TV、ノートPC、モニター)
TV画面サイズのアップが寄与

中・小型パネル(スマートフォン、ゲーム、車載用)
成長は鈍化するが、引き続きスマートフォンが牽引

- **合成樹脂のマーケット**

原油価格の急落
ナフサベースの石化製品の相対的なコスト競争力アップ
製品価格の下落 ⇒ 需要増へ

中期経営計画目標(2017年3月期)

売上高	: 6,200億円
営業利益	: 125億円
経常利益	: 135億円
純利益	: 100億円
ROE	: 8.2%
ネットD/Eレシオ	: 0.45倍以下(※)
自己資本比率	: 38.0%
想定為替レート	: 1USD=100円

(※) ネットD/Eレシオ = (有利子負債 - 現預金) / 自己資本

「New Challenge2016」初年度の進捗状況

- ✓ 円安の恩恵や国内ビジネスの好調により、売上高、経常利益、当期純利益は初年度目標値を上回る
- ✓ 一方、欧米事業が苦戦、営業利益は未達
- ✓ ROE、ネットD/Eレシオ等の経営指標は順調

(億円)	2015年3月期				
	15/3期実績 (A)	通期見通し (B)	達成率 (A/B)%	中期計画 初年度 目標(C)	達成率 (A/C)%
売上高	5,721	5,700	100.4%	5,700	100.4%
営業利益	107	105	102.6%	110	97.9%
経常利益	132	125	105.7%	125	105.7%
当期純利益	86	82	105.3%	75	115.1%
ROE	7.1%	—	—	6.4%	—
ネットD/Eレシオ	0.43	—	—	0.48	—
自己資本比率	39.1%	—	—	36.0%	—
為替レート(米ドル)	109.76	103.01円	—	100.00円	—

(注)通期見通しは2014年11月6日公表の修正値。

「New Challenge2016」 定量目標



(利益 億円)

150

100

50

0

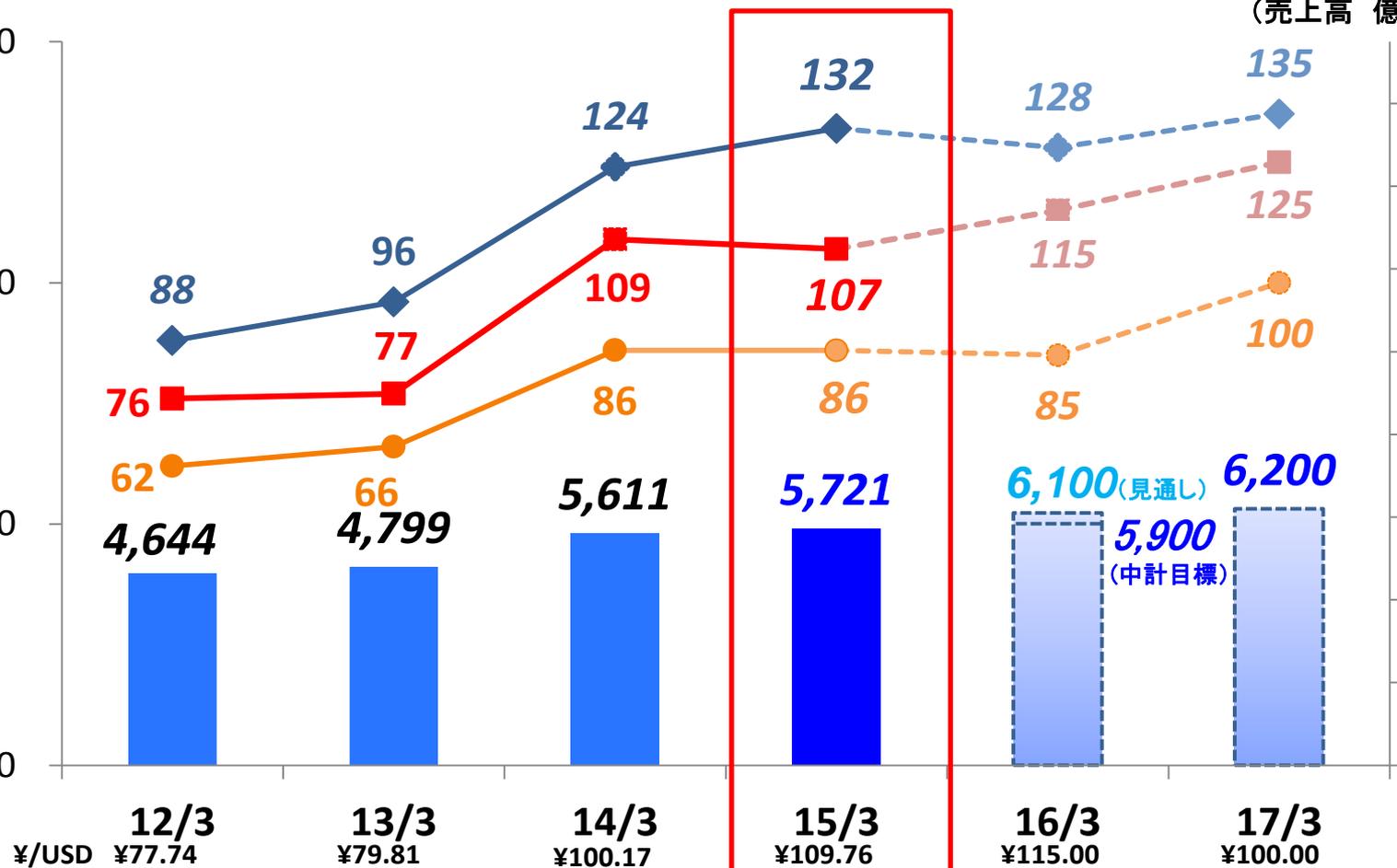
(売上高 億円)

135

125

100

- 売上高
- 営業利益
- ◆ 経常利益
- 純利益



IK2013

New Challenge2016

(注)中計目標は、2014年5月に策定。16/3期売上中計目標 5,900億円→2015年5月8日公表見通し 6,100億円
14/3期の純利益86億円は、関係会社売却益11億円を含む。

1. 海外事業の更なる拡大と深化

- 中核であるアジア事業の更なる拡大と深化
- アジア以外の新興国への取り組みの拡大
- 非日系企業との取引の拡大

2. 成長が見込める市場・未開拓分野への注力

- 自動車分野、環境・エネルギー分野、ライフサイエンス分野への注力
- 新規取引先・新規商材を拡大し、収益の多様化を着実に進める

3. グローバル経営のインフラ整備・拡充

- グローバル経営を支えるリスク管理・経営管理手法の整備
- 情報システム、業務プロセスのグローバルな標準化の推進

4. 将来の成長に向けた投資の実施

- 今後3年間の投資枠を100億円に設定

5. 資金効率・資産効率の更なる追求と財務体質の強化

6. グローバル人材の継続的な育成

1. 海外事業の更なる拡大と深化①

合成樹脂事業の強化

樹脂コンパウンド製造事業を強みとして、合成樹脂関連の販売を更に強化



顧客のグローバル化、現地調達化の動きに対応し、
ワールドワイドに樹脂コンパウンドを供給できる体制の構築を目指す
樹脂コンパウンド事業により他商社との差別化を図り、樹脂の商社ビジネスを拡大



フィリピンの樹脂コンパウンド製造拠点(OA向け)



2014年7月より商業生産を開始

2015年モデルのプリンターに採用され量産化スタート

2015年3月 生産実績100トン超/月 → 年度内に600トン/月へ



会社名	:IK PLASTIC COMPOUND PHILS. INC.
生産能力	:10,800トン/年
所在地	:フィリピン ラグナ州

商社拠点と連携して樹脂ビジネスの拡大を目指す

・ アジア以外の新興国への取り組みの拡大

メキシコの日系初のエンプラ・コンパウンド製造拠点(自動車向け)

2013年11月に稼働開始、2014年9月より量産を開始

自動車向けのため、試作から量産まで時間が必要

→試作案件は順調な立ち上がりへ



2015年3月期

販売実績 約350トン

2016年3月期

5,000トンを計画



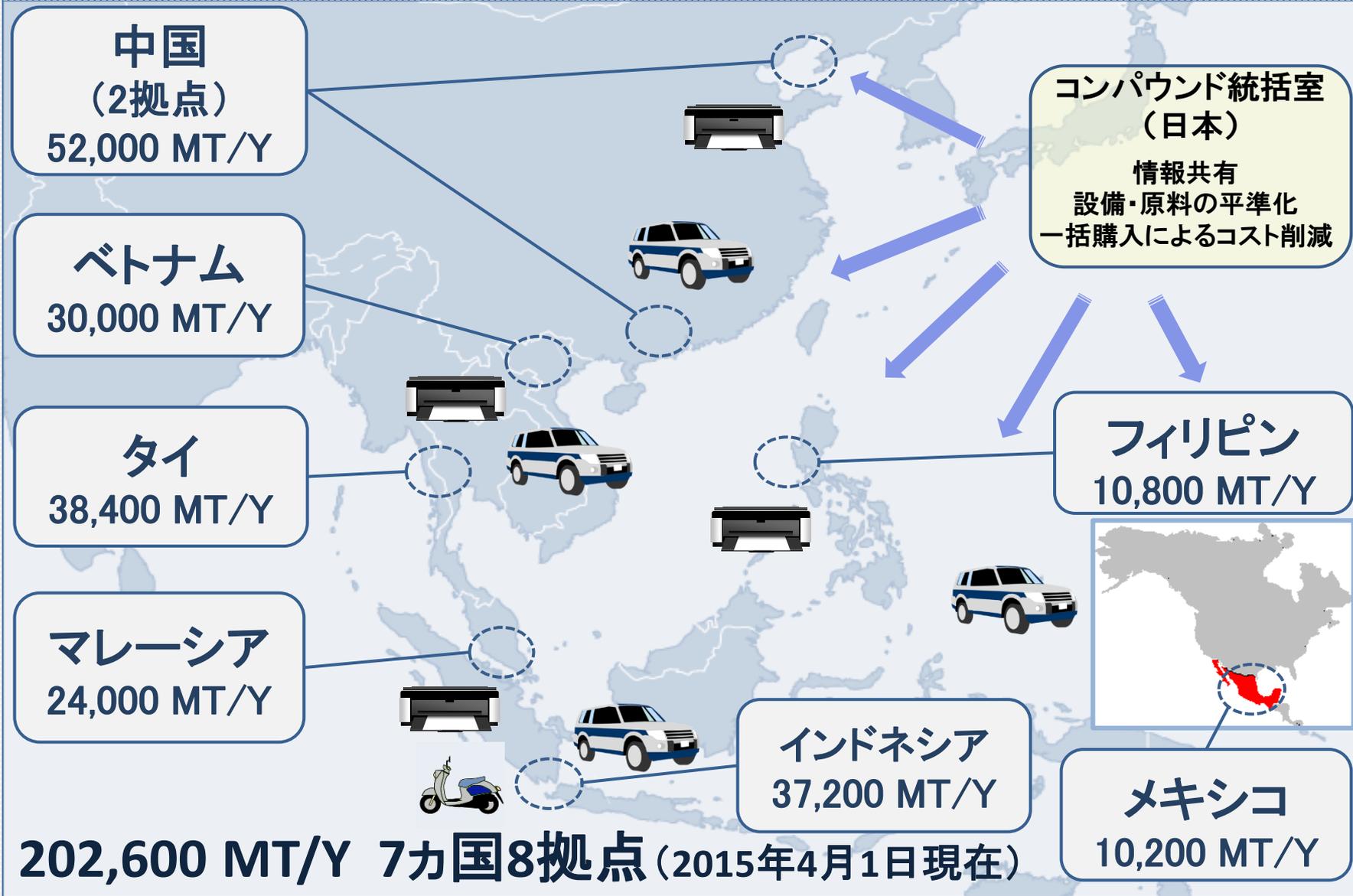
会社名 : IK Plastic Compound Mexico, S.A. de C.V.

生産能力 : 10,200トン/年

所在地 : メキシコ中央部グアナフアト州シラオ

商社拠点と連携して樹脂ビジネスの拡大を目指す

樹脂コンパウンドの年間生産能力(ワールドワイド)



・ 中核であるアジア事業の更なる拡大と深化

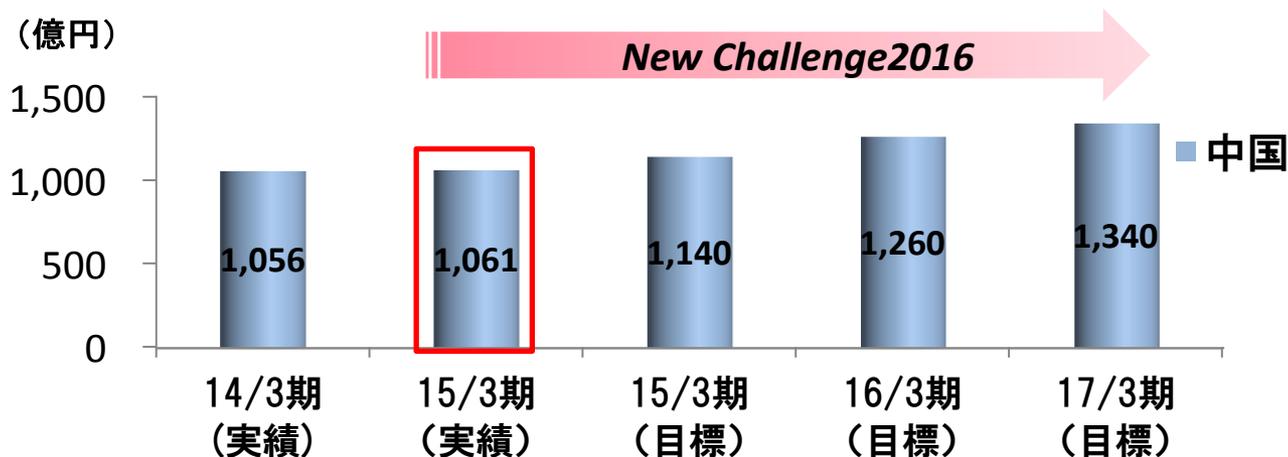
中国に対する取り組み

15/3期 売上高 1,061億円

- ✓ 情報電子事業の液晶関連、主に偏光板の取引が落ち込む
- ✓ 合成樹脂事業では欧米系自動車向けや環境関連・医療関連向けの樹脂の販売が伸長
- ✓ 化学品事業では化学品原料・装置のビジネスが伸長

→ **液晶関連において非日系企業向けを含め拡販を進める**

◆ 中国での売上高実績と中計目標（単純合算ベース）



(注)各期の目標は、2014年5月に策定した計画値。

・ 中核であるアジア事業の更なる拡大と深化

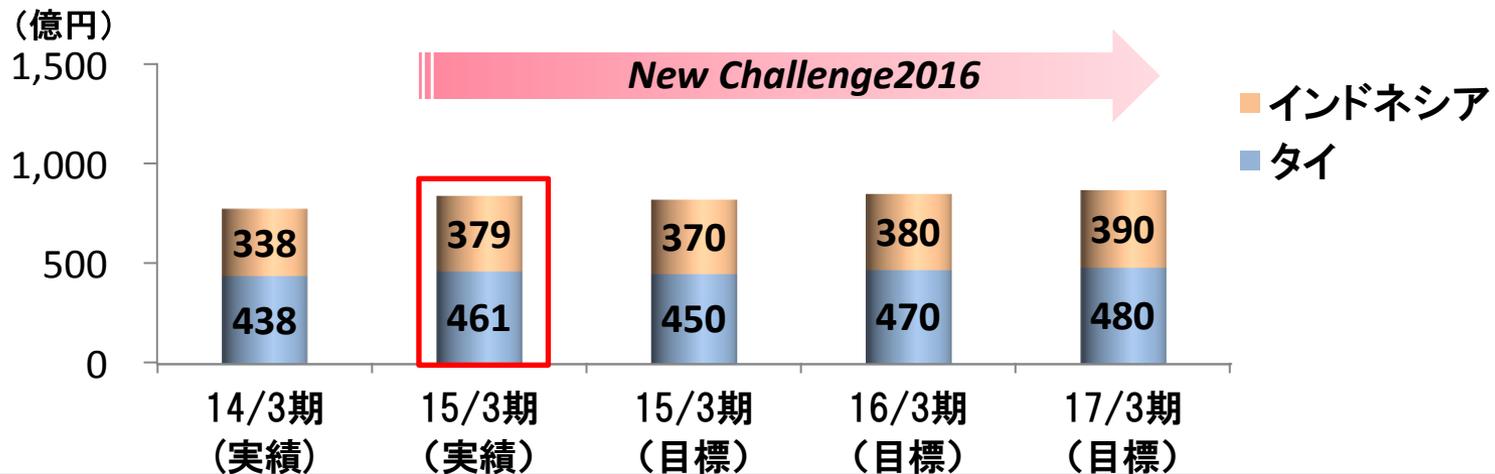
タイ・インドネシアに対する取り組み

15/3期 売上高 タイ 461億円 インドネシア 379億円

- ✓ タイでは、デモ騒動や自動車生産減などの影響があったが、電気電子関連など堅調に推移
- ✓ インドネシアでは、車両や生活消費財等内需向けの樹脂の販売が伸長

→ **車両分野のビジネスを中心に注力**

◆タイ・インドネシアでの売上高実績と中計目標（単純合算ベース）



(注)各期の目標は、2014年5月に策定した計画値。

(注)車両は、4輪および2輪。

ベトナムに対する取り組み

ベトナムのポリエチレン(PE)製の袋・フィルムの製造拠点を設立

- ✓ タイのApple Film Co.,Ltd.の第二工場
- ✓ 顧客の「脱中国サプライヤー」の動きに対応
- ✓ タイでは高付加価値品、ベトナムでは労働集約型の汎用品を生産

2014年9月より営業生産開始、10月より輸出スタート

2015年3月期

2016年3月期

製造実績 約500トン → 2,500トン超を計画



会社名 : Apple Film Da Nang Co., Ltd.

設立 : 2013年9月

事業内容: ポリエチレン製袋(ゴミ袋、規格袋)の製造、販売

生産能力: 当初3,000トン/年

所在地 : ベトナム ダナン市

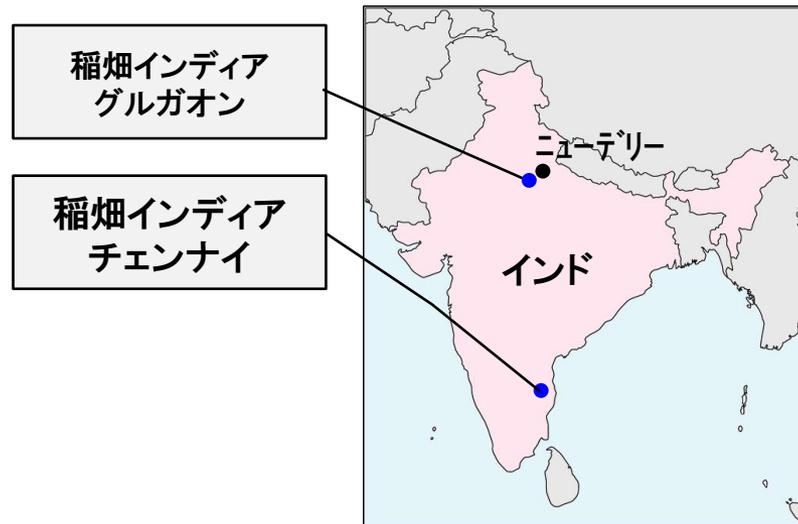
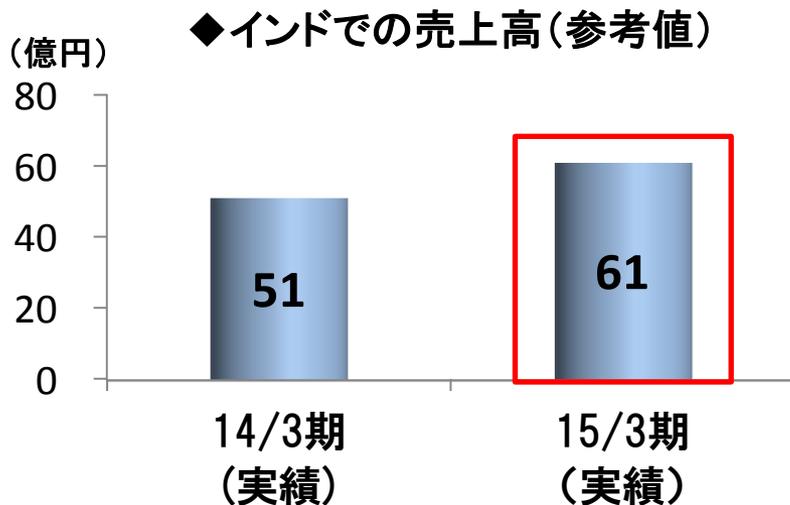
・ 中核であるアジア事業の更なる拡大と深化

インドに対する取り組み

15/3期 売上高 61億円（参考値）

- ✓ 2014年5月のモディ政権発足により経済は安定化の方向へ
- ✓ 為替の安定を背景に、樹脂関連を中心にビジネスが順調に拡大
- ✓ 樹脂の販売先は、雑貨メーカーを主体としたスポットビジネスから、車両、家電等を主体とした継続ビジネスへと進化

➡ **日系顧客とのビジネスを核に取引拡大を目指す**



(注) 売上高は、在庫販売の売上高にコミッションベースの取引のみなし売上高(マージン率より算出)を合計した参考値です。 17

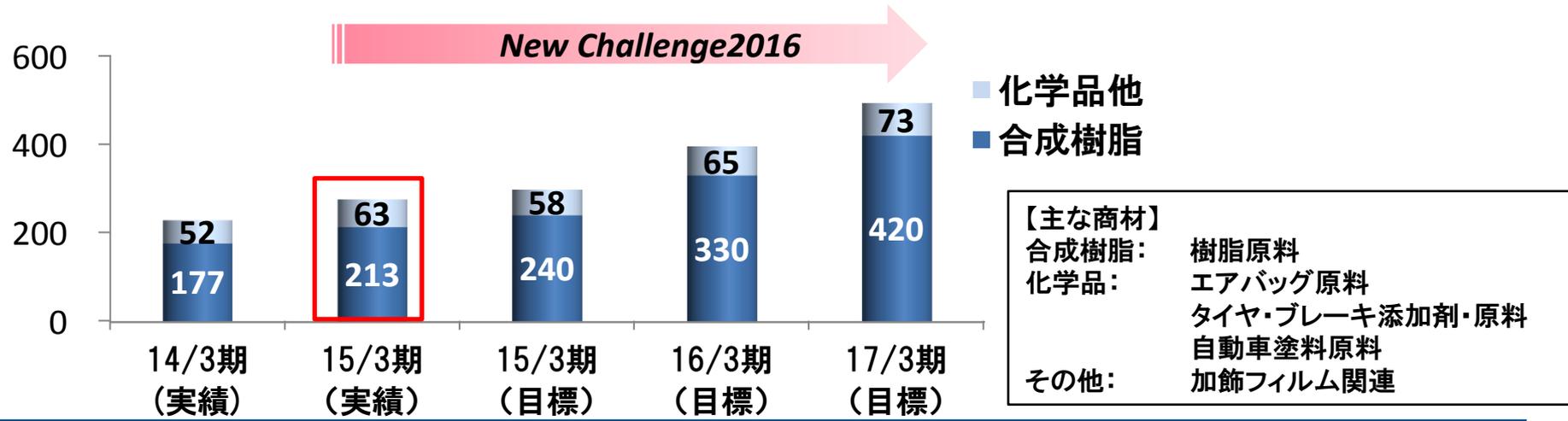
自動車分野への取り組み

15/3期 売上高 合成樹脂213億円 化学品他 63億円

- ✓ 樹脂原料では、海外で築いた日系メーカーとのビジネスの国内展開と、海外樹脂メーカーとの協業による既存商社からの商流変更を進める
- ✓ 化学品では、ブレーキ用添加剤、エアバッグ用シリコーン、塗料用原料などが好調

→ 量産が本格化するメキシコなどで樹脂の拡販を目指す

(億円) ◆ 主な自動車分野の売上高実績と中計目標

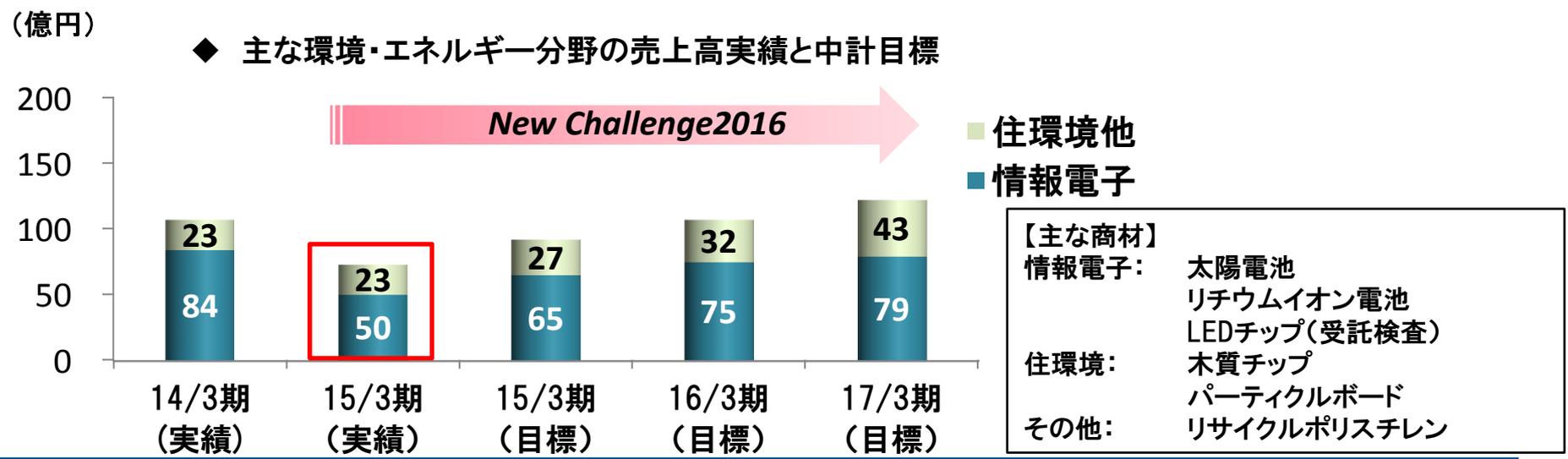


環境・エネルギー分野への取り組み

15/3期 売上高 情報電子50億円 住環境他 23億円

- ✓ 太陽電池は、ARガラスビジネスの減少と日系メーカー向けセルの供給終息により減少
- ✓ リチウム電池は、材料販売が伸び悩む
- ✓ 廃材利用のパーティクルボードは堅調

→ **カーポート向け太陽電池部材、リチウム電池用材料・装置、木質バイオマス発電向け木材チップの販売等に注力**



(注) LEDチップ(受託検査)ビジネスの形態の変更により、売上高の実績・目標値を修正しています。

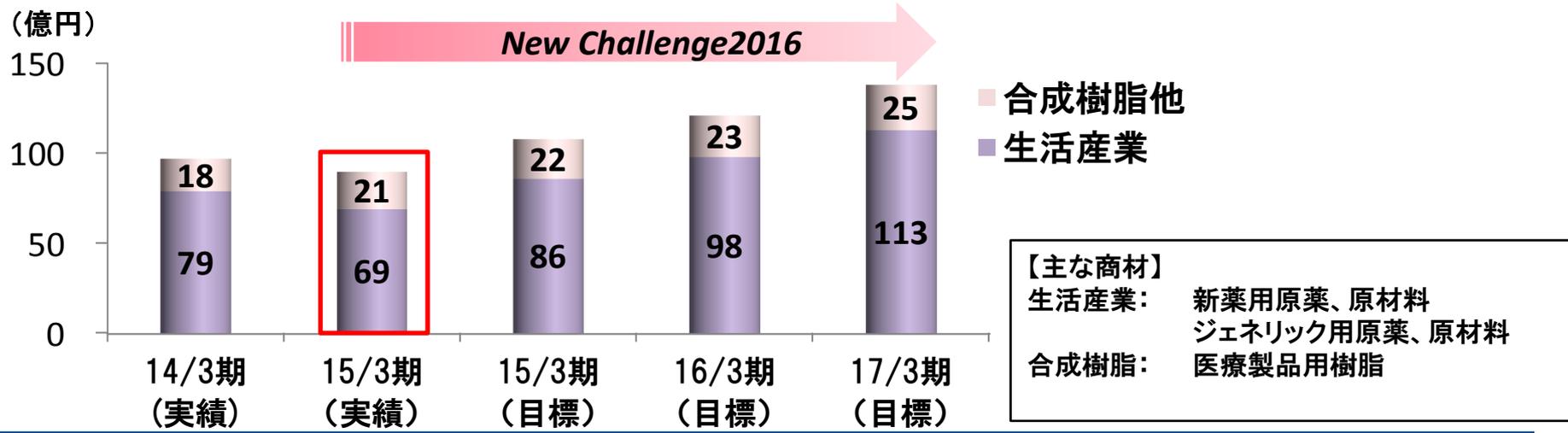
ライフサイエンス分野への取り組み

15/3期 売上高 生活産業 69億円 合成樹脂他 21億円

- ✓ 新薬用原料は、プロジェクトが中止になり目標未達
- ✓ ジェネリック用原料は、国内が順調だったが、仏子会社で落ち込む
- ✓ 医療機器用の樹脂を、大手医療機器メーカーにグローバルに供給

➡ ジェネリック関連の拡販に注力、最先端医療分野への参入

◆ 主なライフサイエンス分野の売上高実績と中計目標



(注) 実績および目標値に生活産業(海外)と合成樹脂を追加修正しています。

グローバル与信管理体制の構築

2011年 中国の商社拠点で、与信リスク管理の本社関与を強化

2012年 与信管理システム「Global2012」を導入

- ・ 与信残高の95%の取引先をタイムリーに把握
- ・ 取引先グループに対する与信管理

2013年 北東アジアにおいて取引信用保険付保を開始

2014年 非日系企業の信用ランク細分化による管理の徹底

海外拠点で統一を進めている基幹システムと「Global2012」の連携強化へ

4. 将来の成長に向けた投資の実施

中計3年間の投資枠を100億円に設定

2015年3月期の投資実施状況 38億円

【内訳】

合成樹脂19億円、化学品5億円、情報電子2億円 他

【主な投資実績】

合成樹脂海外事業用地(7.3億円)

コンパウンド事業 資本・設備投資(4.7億円)

プラスチックフィルム事業 資本・設備投資(5.1億円)

6. グローバル人材の継続的な育成

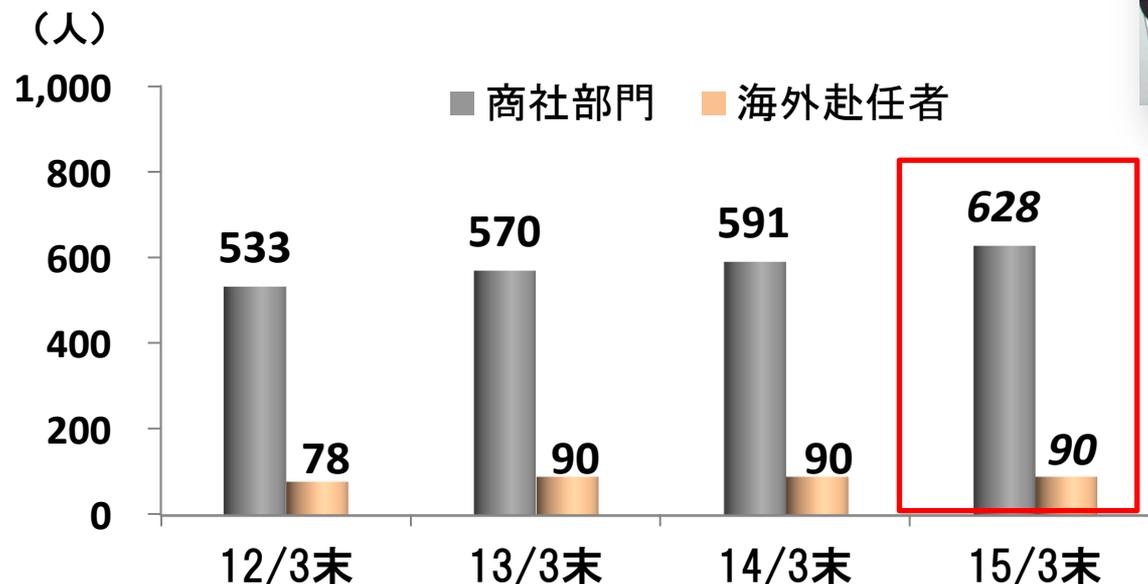
人員の充実と共に、質的な面での強化、育成を加速

- ✓ 日本を含めたナショナルスタッフ同士の交流促進
- ✓ Global Staff Meetingの継続的な開催
2014年5月、2015年5月に東京にて開催



【稲畑上海の社員】

海外の商社部門人員と海外赴任者数の推移



(注)各海外赴任者数は、翌月の1日現在の人数

株主への利益還元①

2015年3月期より株主への利益還元の方針を変更

配当性向 20～30%目安 → 総還元性向 30～35%目安

基準に自己株式取得額を織り込むことで、より明確に利益還元を実施

総還元性向(%) = (配当金額 + 自己株式取得額) ÷ 連結純利益 × 100

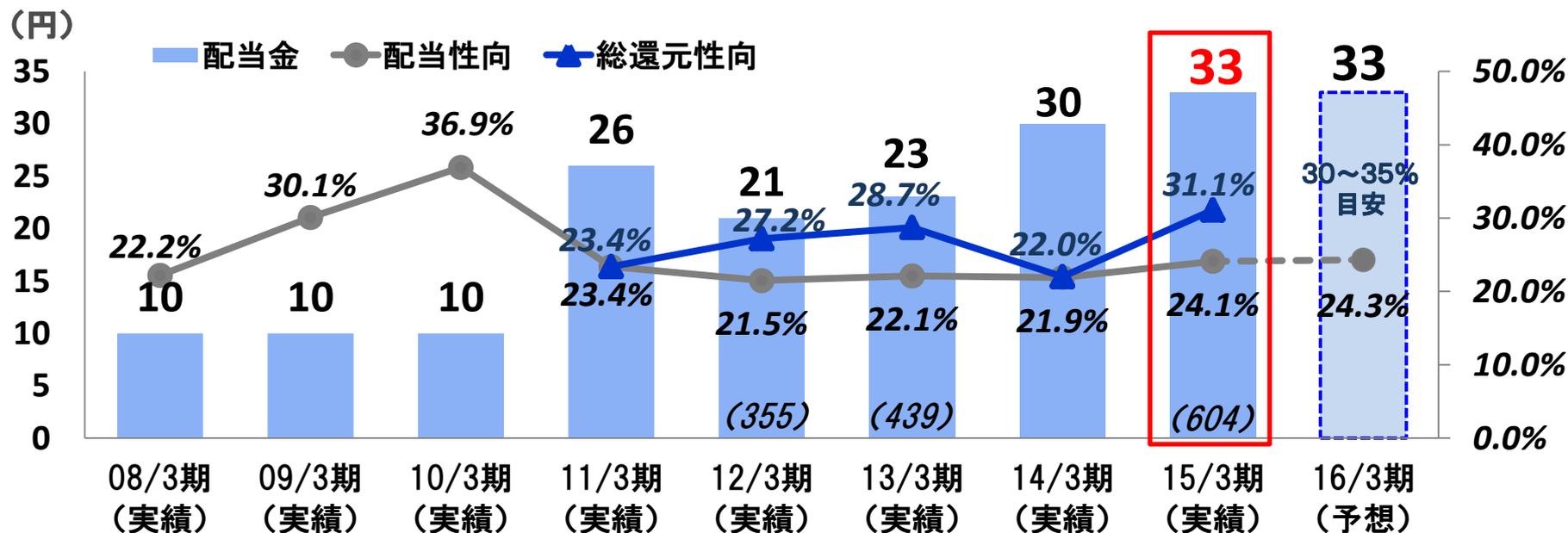
株主への利益還元②

2015年3月期の株主還元

総還元性向 31.1% 配当性向 24.1%

1株当たり配当金： 中間 15円 期末 18円 年間 33円
 自己株式取得額： 604百万円（2014年8月実施 600千株）

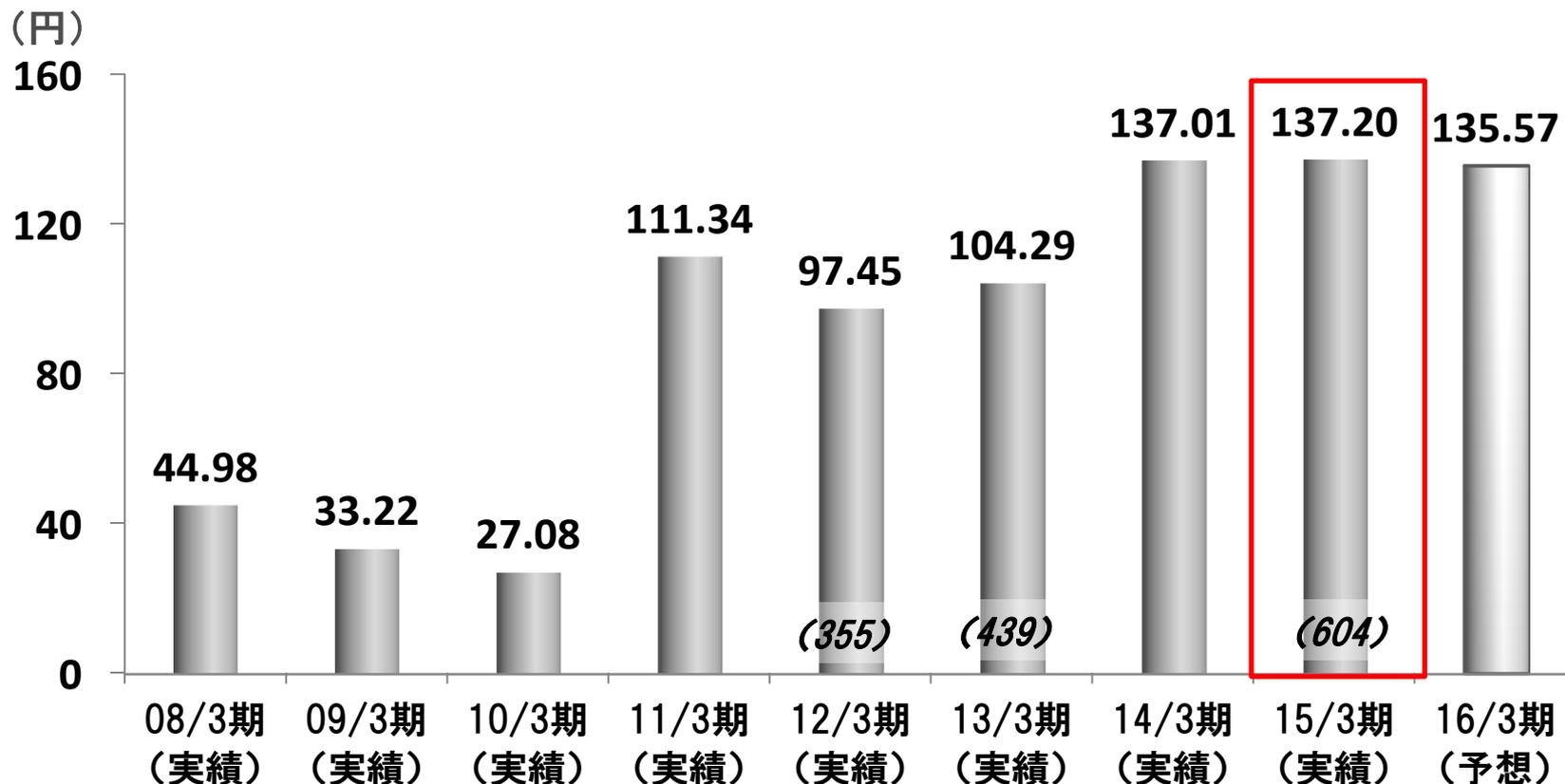
1株当たりの年間配当金と株主還元指標の推移



(注)棒グラフ下部のカッコ内は、期中に実施した自己株式取得額(百万円)

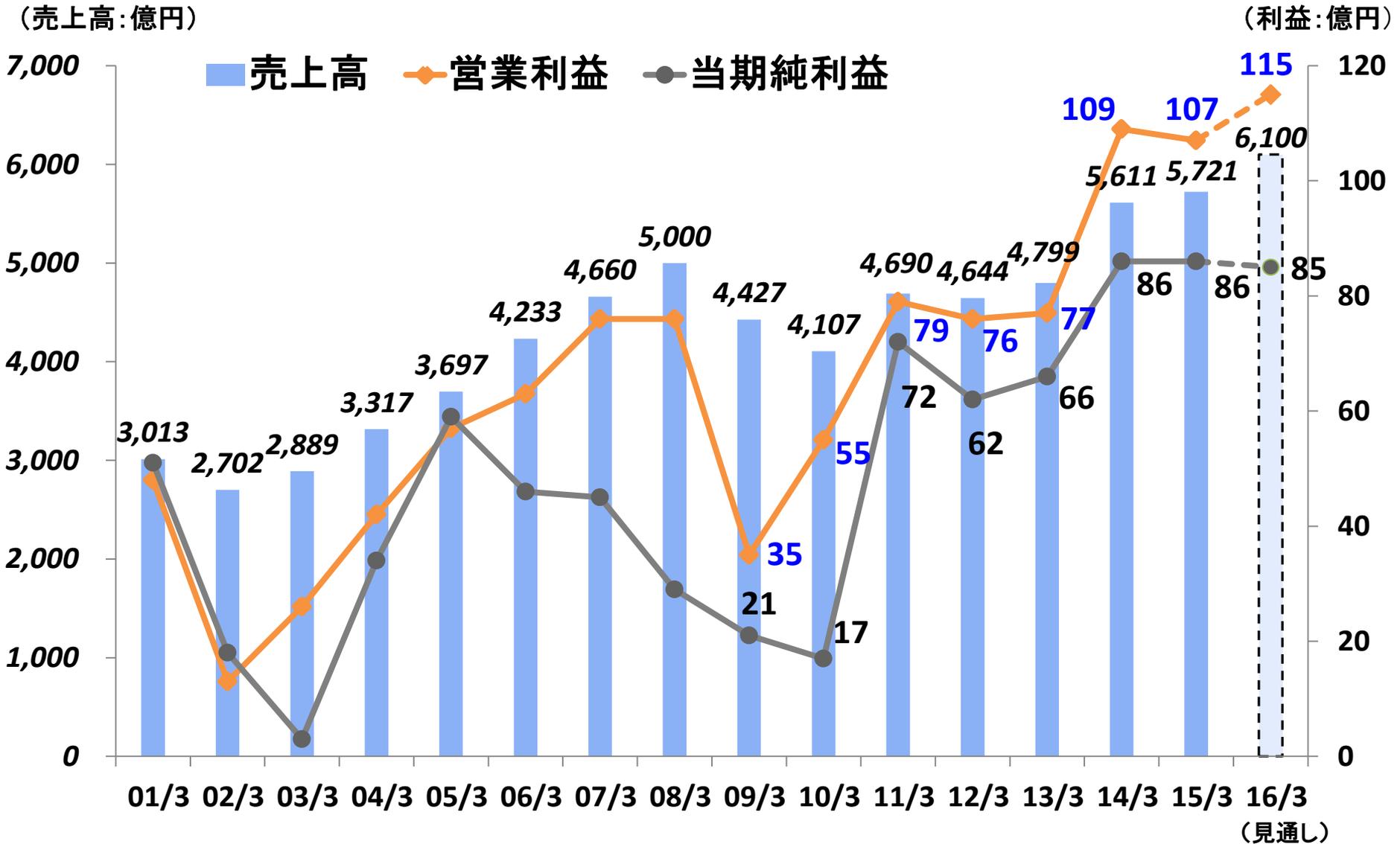
(注)11/3期は、創業120周年の記念配当2円を含みます。

1株当たりの当期純利益推移(EPS)

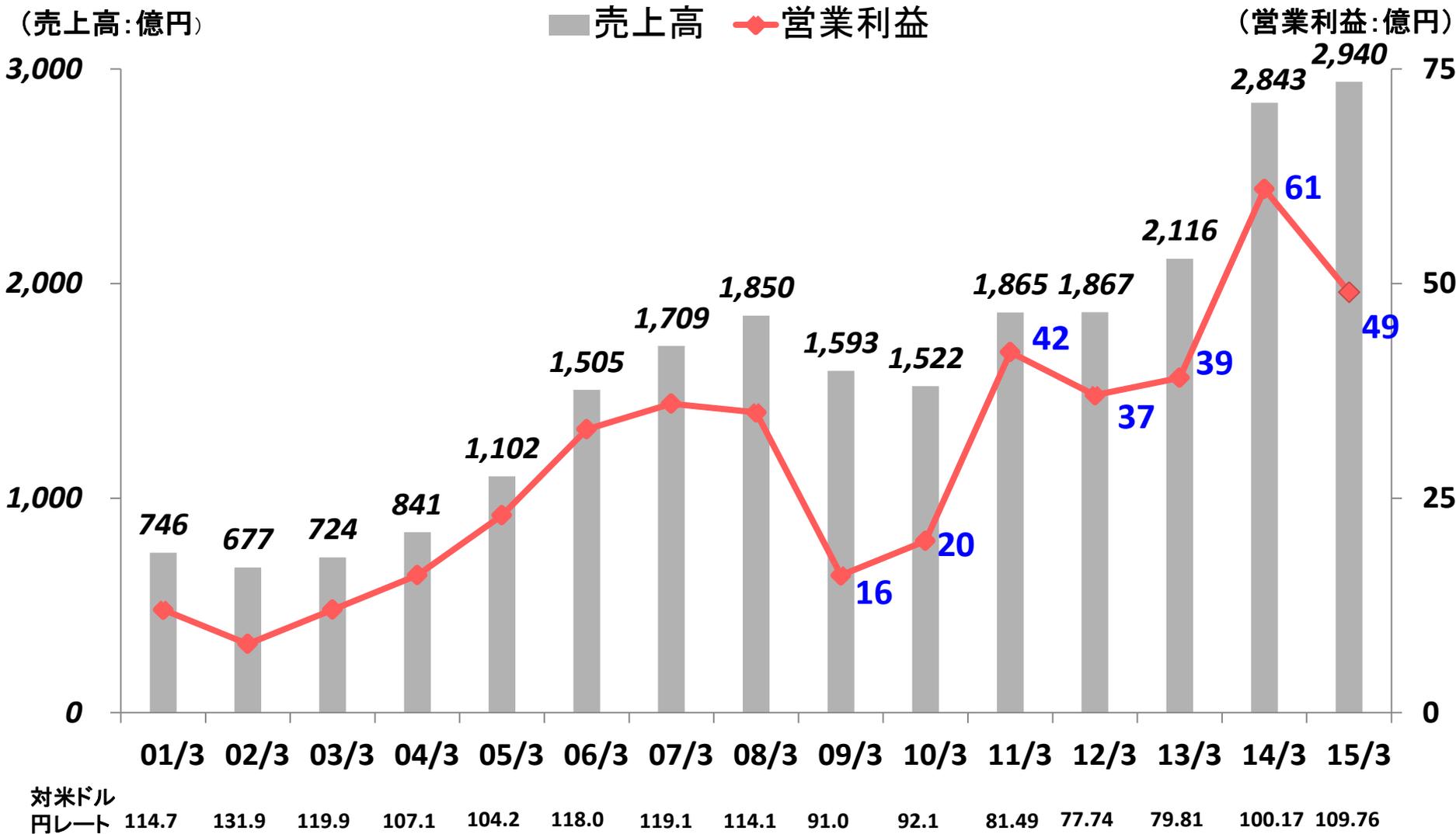


(注)棒グラフ下部のカッコ()内は、期中に実施した自己株式取得額(百万円)

【参考】 過去15年の連結業績の推移



過去15年の海外の売上高と営業利益の推移



【参考】 事業セグメントの概要

情報電子



ディスプレイ・ケミカル装置	液晶ディスプレイ(LCD)関連、LED関連業界への部材の供給および各種製造装置の取扱いを中心に、新規分野への展開も視野に高度な専門知識を活かした提案型ビジネスを展開。
映像・情報	複写機、プリンター業界のお客様にインクジェットやトナー原料、カートリッジなどの各種部材の販売、また専門知識を活かした幅広いサービスを提供。
エネルギー・エレクトロニクス材料・電子材料	半導体、LED、タッチパネル、太陽電池、二次電池、産業用フィルム業界等のお客様に、原料からプロセス材料、製造・検査装置、製品まで、高度な専門性を駆使したソリューションを提供。

合成樹脂



成型材	塩ビ樹脂、可塑剤、添加剤やポリオレフィン系、スチレン系樹脂などの汎用樹脂から各種コンパウンド、エラストマー、エンジニアリング・プラスチック、合成ゴムまで幅広い仕入ソースを背景にお客様のニーズ、シーズに合致した提案や製品展開に注力
高機能樹脂	エンブラ、スーパーエンブラ、特殊樹脂を中心に家電、OA、電子部品、自動車、建材分野のお客様に提案
産業材	ポリオレフィン原料、フィルム製品が中心で、原料メーカーとのタイアップや海外展開により充実したサービスを提供。環境対応商品、高機能商品の開発にも注力。
フィルム・機能材	コンバーター業界に対するフィルムビジネスをコアに、工業材料分野・自動車分野にも製品展開を行い、汎用・高機能オレフィンフィルム販売から食品・工業用向け最終製品までのコーディネートを提供
シート・成形材	PP,PS,PET樹脂などのシート類やその原反のみならず製品加工までと原料から製品までと一貫介在し、物流コストの効率化・コスト低減に寄与



化学品



スペシャリティケミカル	自動車部品から電子材料まで多岐にわたる業界に高機能化学品をグローバルに展開。
パフォーマンスケミカル	塗料、インキ業界向けを中心としたコーティング原材料と製紙関連薬品、接着剤原料および製品等、幅広い商品をタイムリーに提供。

住環境



住宅建材	住宅メーカー・建材メーカー向けパーティクルボード、木材、集成材、建材、プラスチック製品などの販売
環境資材	住宅設備機器メーカー向け・非住宅分野向けに原材料から半製品・製品までの販売

生活産業



ファーマケミカル	ヒューマンヘルスケアの様々なシーンにおける医薬原料の提供
環境・ファインケミカル	日用必需品の原料調達をグローバルにサポート。商品の企画から製品までトータルソリューションを提供
食品	安心・安全な水産物、農産物を世界中から提供

会社名	稲畑産業株式会社
創業	1890年10月1日
設立	1918年6月10日
資本金	93億6千4百万円
代表者	代表取締役社長 社長執行役員 稲畑 勝太郎
本社	大阪本社/大阪市中央区南船場 一丁目15番14号 東京本社/東京都中央区日本橋 本町二丁目8番2号
従業員数	602名〔連結3,454名〕
発行可能 株式総数	200,000,000株
発行済株 式の総数	63,499,227株

事業年度	毎年4月1日から 翌年3月31日まで
上場市場	東証一部
証券コード	8098
単元株式数	100株
株主数	4,182名
大株主の状 況(持株比率 上位3株主と 持株比率)	住友化学株式会社 22.0% 日本トラスティ・サービス信 託銀行株式会社(信託口) 5.1% JP MORGAN CHASE BANK 385093 4.4%

(注)当社保有の自己株式数(609,676株)については、持ち株比率の計算から除外しています。

(2015年3月31日現在)

□ IRに関するお問い合わせ先

稲畑産業株式会社 財務経営管理室 IR企画部

TEL 03-3639-6579 FAX 03-3639-6410

E-mail inabata-ir@inabata.com

◆将来の見通しに関する注意事項

本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。従いましてこれらのデータや将来の予測は、不確定な要素を含んだものであり、将来の業績等を保証するものではないことをご理解下さい。

◆数値の表示に関して

資料内の億円単位、百万円単位の数値は、それぞれ億円未満、百万円未満を切り捨てておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。